

建設業界に属する荷主企業への深掘アンケート調査結果（日本建設業連合会 関東支部）

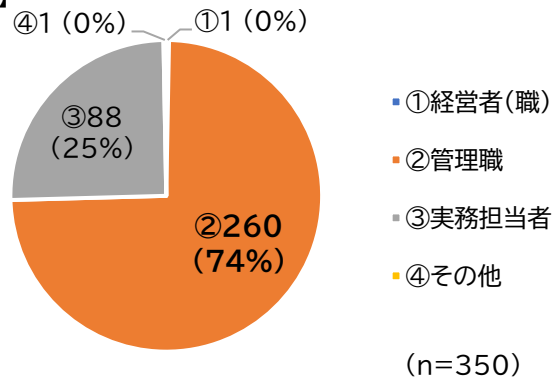
◆単純集計

【属性】 本アンケートを記載された方についてお伺いいたします。属性1～3、5、6について、該当する箇所に○を付けてください。また、属性4についてご回答ください。

【属性1】

回答者の役職は、「管理職」と回答した割合が約7割で最も多かった。

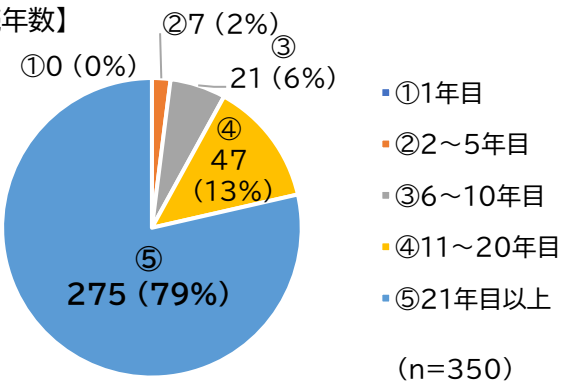
【役職】



【属性2】

回答者の勤続年数は「21年目以上」が約8割で最も多かった。

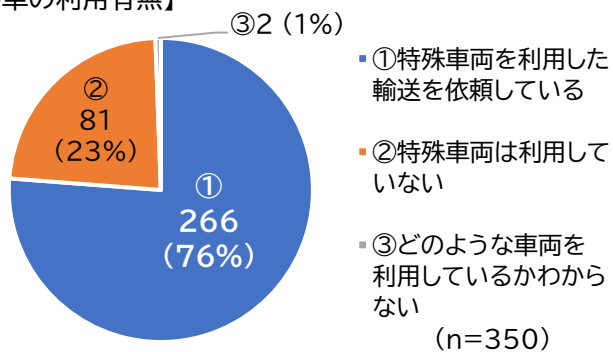
【勤続年数】



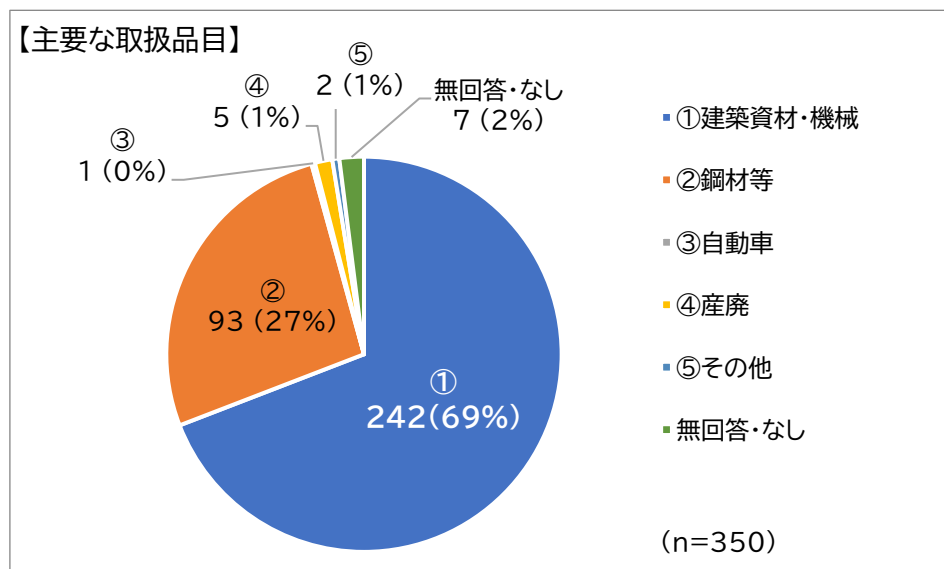
【属性3】

「特殊車両を利用した輸送を依頼している」と回答した割合は約8割（263名）であった。

【特車の利用有無】



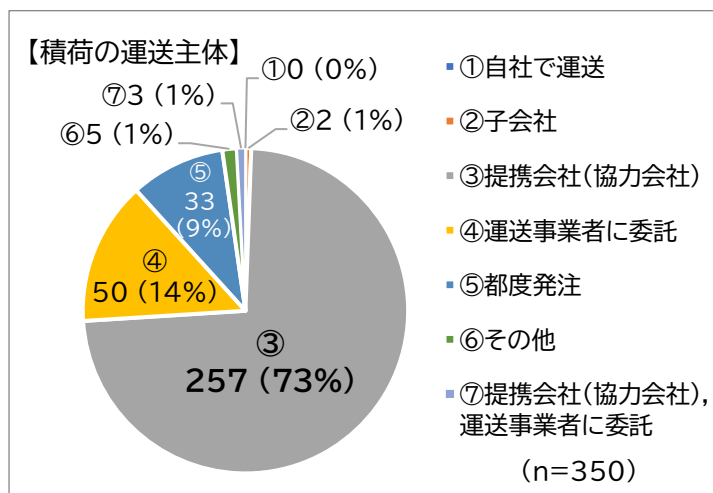
【属性 4】



主要な取扱品目については、「建築資材・機械」と回答した割合が約7割と最も多く、次いで「鋼材」と回答した割合が約3割であった。

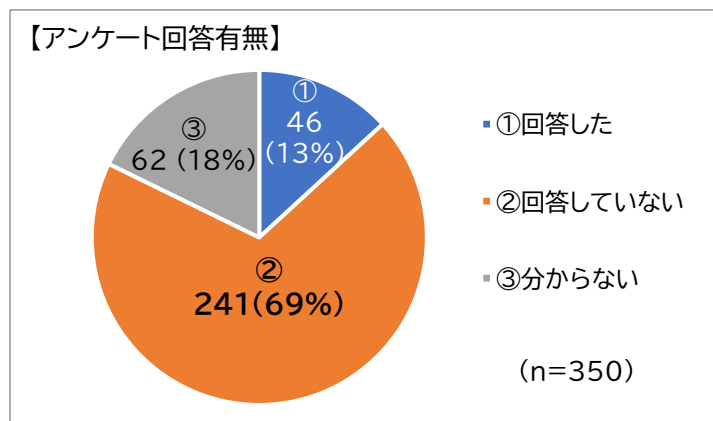
【属性 5】

積荷の運送主体は、「提携会社（協力会社）」と回答した割合が約7割と最も多かった。



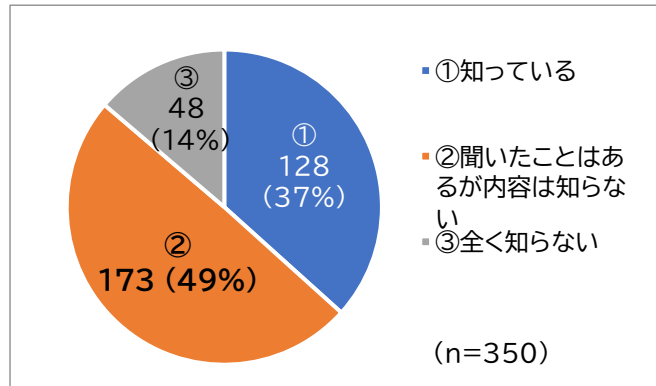
【属性 6】

昨年度のアンケートの回答状況については、約1割(46名)が「回答した」、約7割(241名)が「回答していない」結果となった。



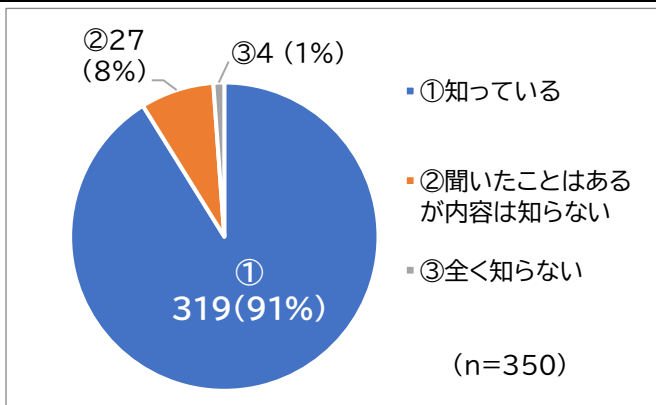
【質問1】 昨年度のアンケート調査結果では、特車制度(法令で定められた重さ等を超えた大型車は通行許可が必要)の認知度は 98%でした。なお、特車制度では、道路を通行する際に特殊車両通行許可の条件(A 条件、B 条件、C条件、D条件)が付されますが、それぞれの条件についてご存じですか？

特車制度における通行条件の内容についての認知度は約4割であった。残りの約6割が内容について知らない結果となり、特車制度の認知度は高い一方で、詳細については熟知されていないことが推察される。



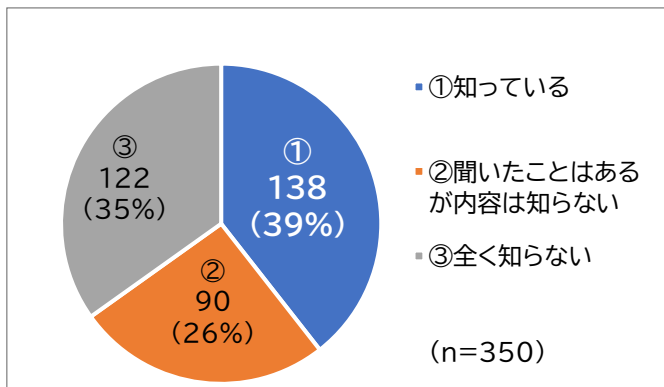
【質問2】 特車制度では、重量物や超寸法の積み荷を運ぶ場合、特殊車両通行許可の条件によっては夜間通行条件(21 時～翌 6 時等)が付される場合がありますが、ご存じですか？

特車制度における夜間通行条件の付与に関する認知度は約9割と高い結果になった。



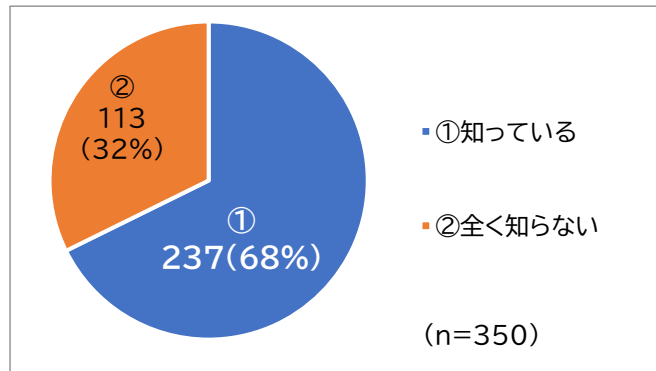
【質問3】 特車制度では、重量物や超寸法の積み荷を運ぶ場合、特殊車両通行許可の条件によっては誘導車を配置することになっていますが、令和3年3月から誘導車の配置台数等を合理化(車両の前後から車両の前方又は後方へ)されたことをご存じですか？

誘導車の配置条件の改正について、「知っている」と回答した割合は約4割であり、「聞いたことはあるが内容は知らない」「全く知らない」を合わせた割合より低い結果となった。



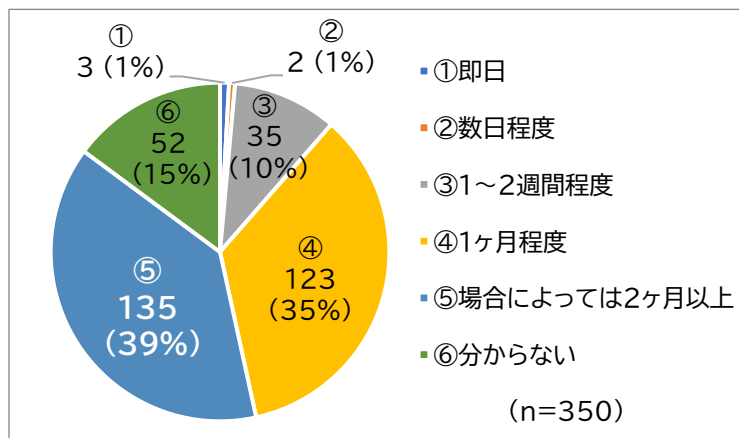
【質問4】 車両に荷物を積む場合に、総重量が特殊車両通行許可証以内であっても軸重が特殊車両通行許可証に記載された値を超過すると違反になることをご存じですか？

軸重違反に関する認知度は約 7 割となった。



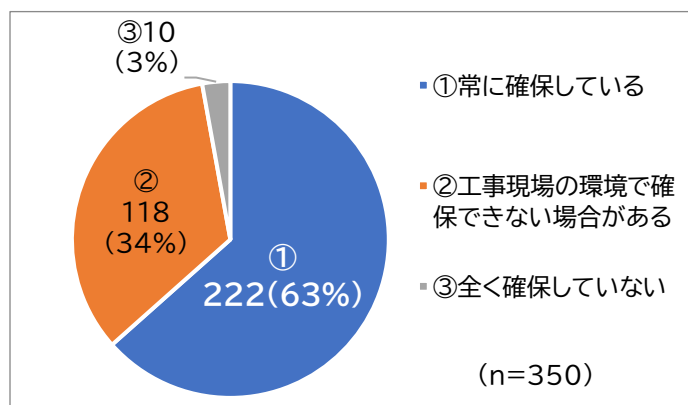
【質問5】 運送事業者が特殊車両通行許可を取得するには、どの程度の時間を要しているかご存じですか。

通行許可取得までに要する時間について、「場合によっては 2 ヶ月以上」と回答した割合が約 4 割と最も多く、次いで「1 ヶ月程度」と回答した割合が多い結果となった。



【質問6】 特殊車両通行許可の条件として、夜間通行条件(21 時～翌 6 時等)が付された場合に、工事現場への搬入、又は搬出時の待機場所や大型クレーンの組み立て・分解時の作業ヤードを確保していますか？

夜間通行条件が付された場合の搬入・搬出時の待機場所や作業ヤードについて、「常に確保している」と回答した割合が約 6 割であった。一方で「工事現場の環境で確保できない場合がある」との回答も 3 割を超える結果となった。



【質問7】 特殊車両通行許可制度について、ご意見がございましたら記入してください。

特車制度に関する意見については、3件の具体的な回答が得られた。

回答内容

申請記入事項が複雑で期間もかかり手間である。

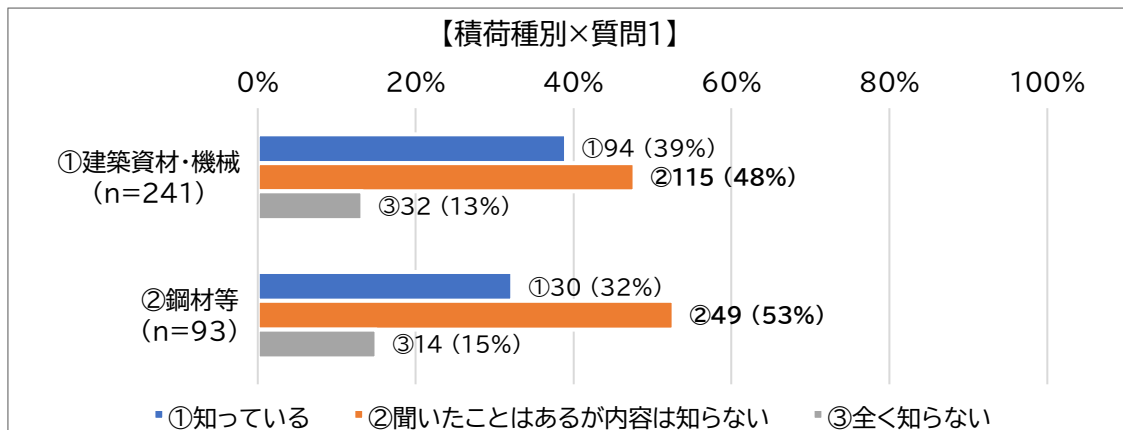
取得時間の短縮をお願いします。

誘導車のルールが簡素化されている事を知らなかった。小職の理解不足かもしれませんが、もっと積極的なインフォメーションを頂けると助かります。

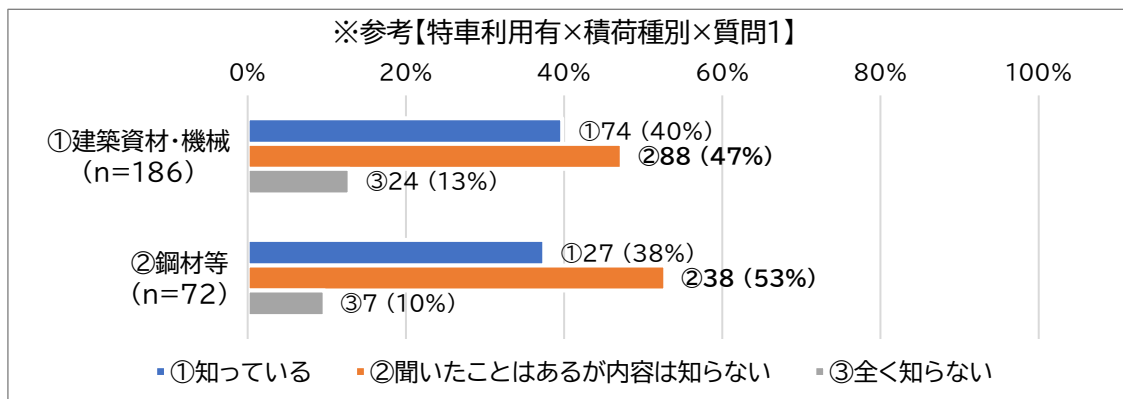
◆クロス集計

各質問項目の回答内容を精査するため、属性4の「主要な取扱品目」において、回答が多かった上位2種別「建築資材・機械」(69%)「鋼材」(27%)を取り上げ、各質問項目とクロス集計を行った。

【積荷種別×質問1: 通行条件(A~D条件)】

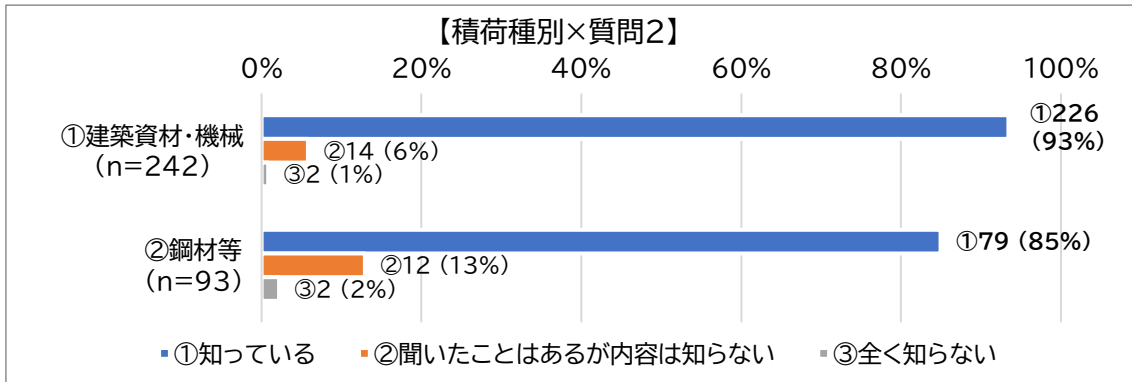


通行許可条件に対する認知度は、「建築資材・機械」を取り扱う回答者が約4割、「鋼材等」を取り扱う回答者が約3割とやや低い結果となった。

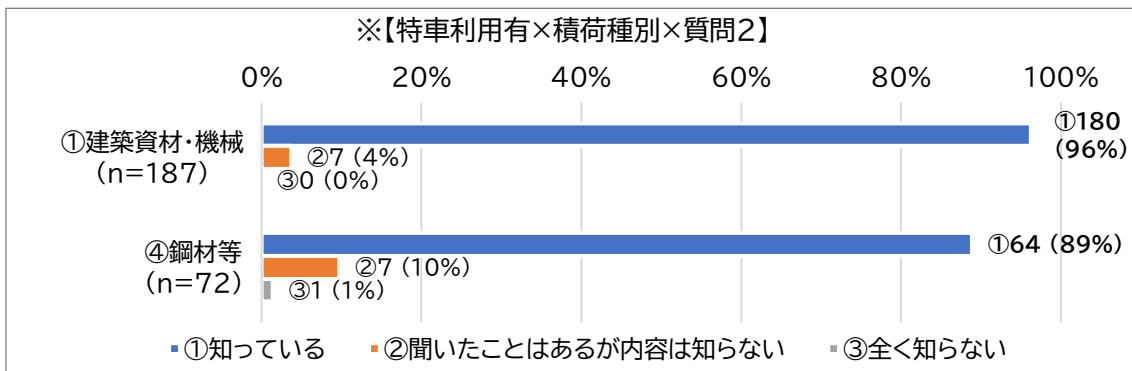


特車利用者限定し同様にクロス集計を行ったところ、「建築資材・機械」「鋼材等」共に全体の回答よりも、認知度はやや高い結果となった。

【積荷種別×質問2:夜間通行条件】

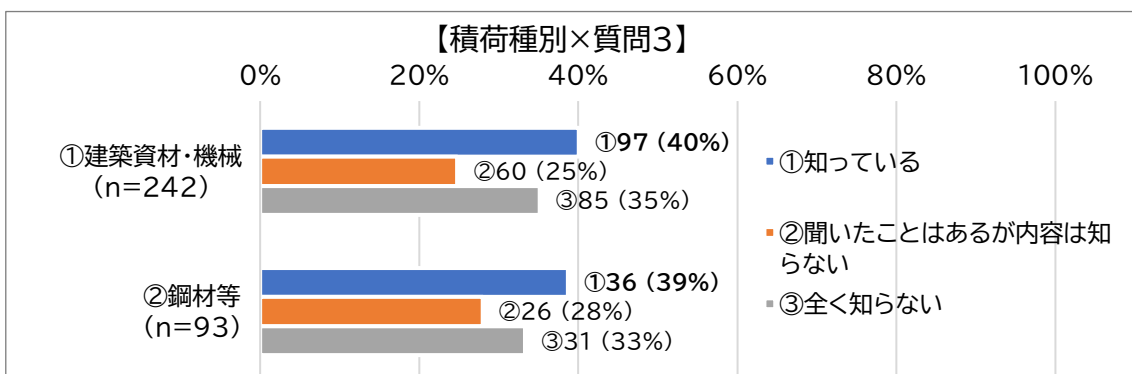


夜間通行条件の認知度は「建築資材・機械」を取り扱う回答者が約9割、「鋼材等」を取り扱う回答者が約8割であった。

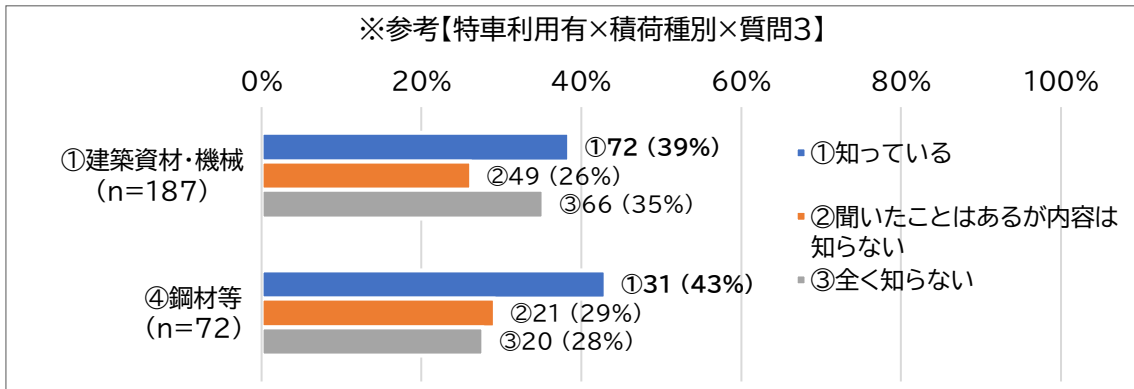


特車利用者に限定したところ、それぞれ認知度が3~4%高くなった。

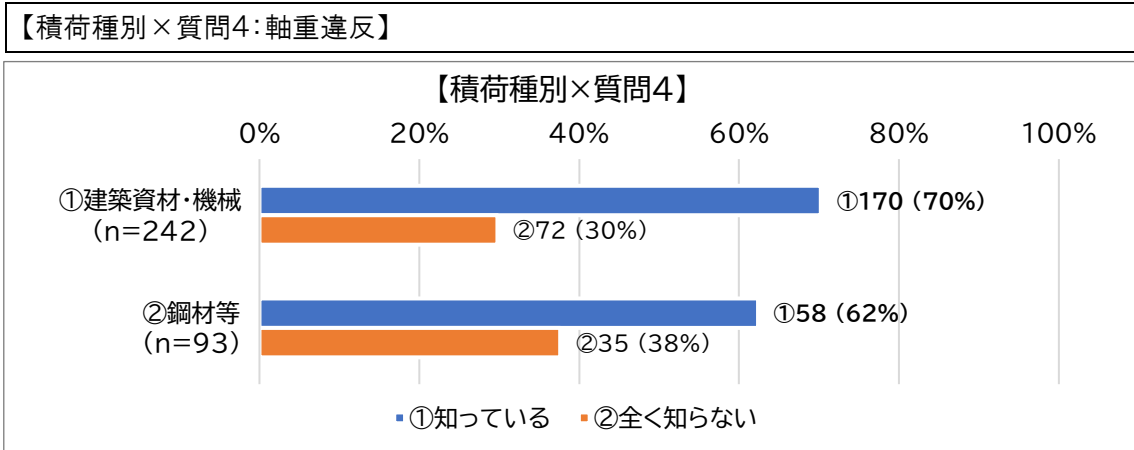
【積荷種別×質問3:誘導車の配置条件の改正】



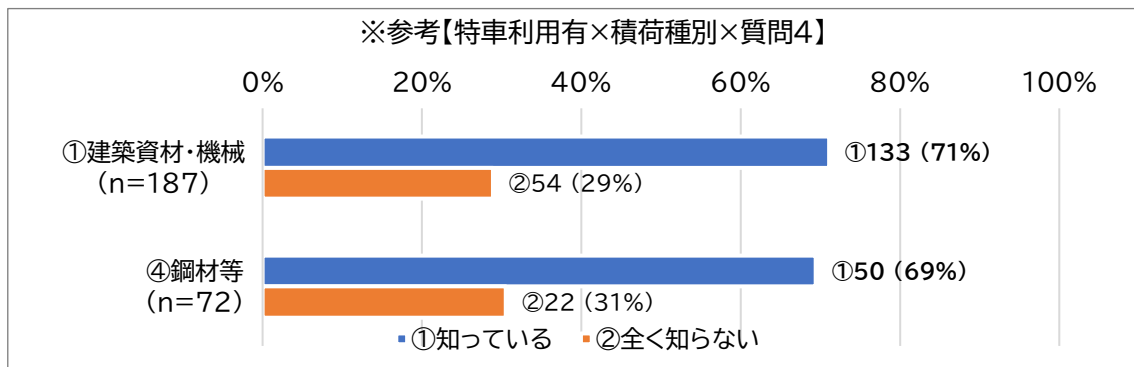
誘導車配置条件の改正についての認知度は、「建築資材・機械」「鋼材等」を取り扱う回答者共に約4割であった。



特車利用者のみ限定したところ、「鋼材等」を取り扱う回答者の認知度が約 4%上昇した。

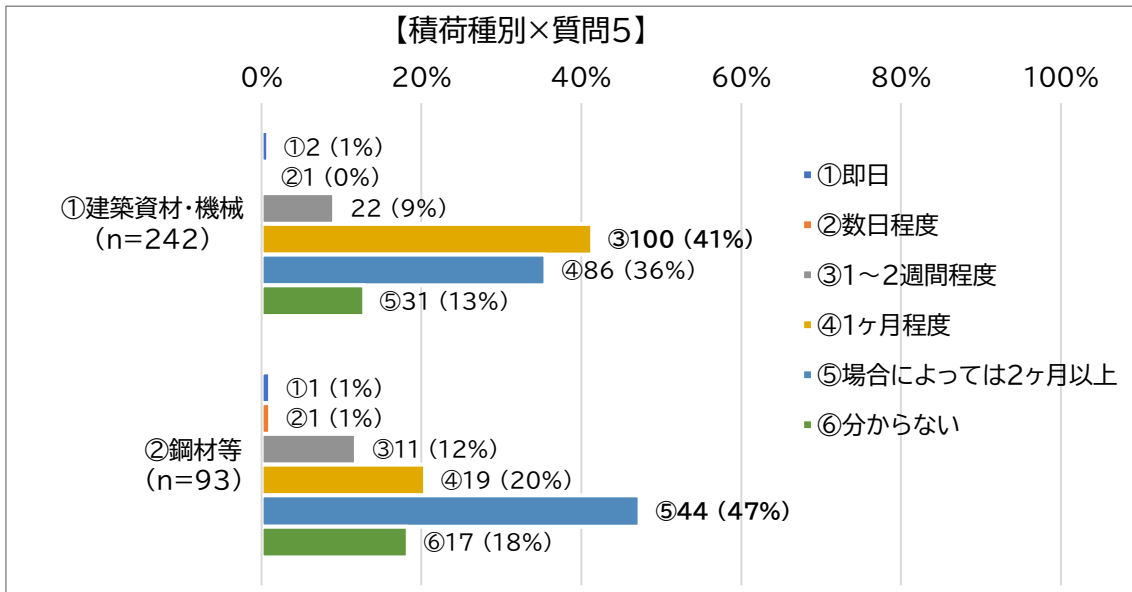


軸重違反の認知度は、「鋼材等」を取り扱う回答者が約 6 割であり、「建築資材・機械」を取り扱う回答者よりやや低い結果となった。

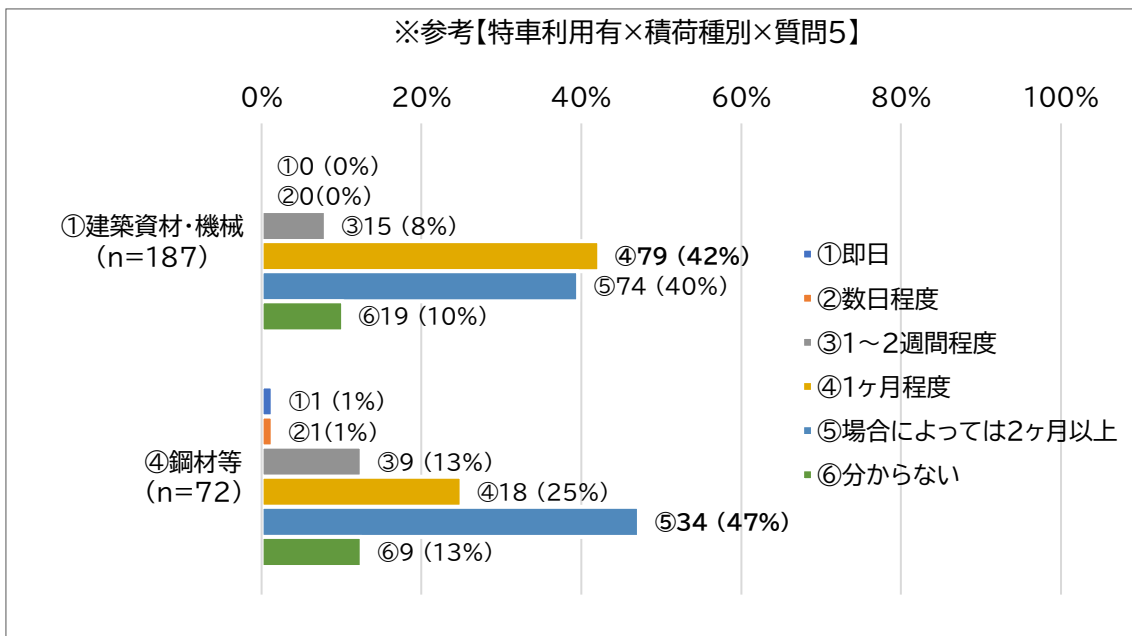


特車利用者のみ限定したところ、「鋼材等」を取り扱う回答者の認知度が約 6%上昇した。

【積荷種別×質問5:通行許可取得に要する時間】

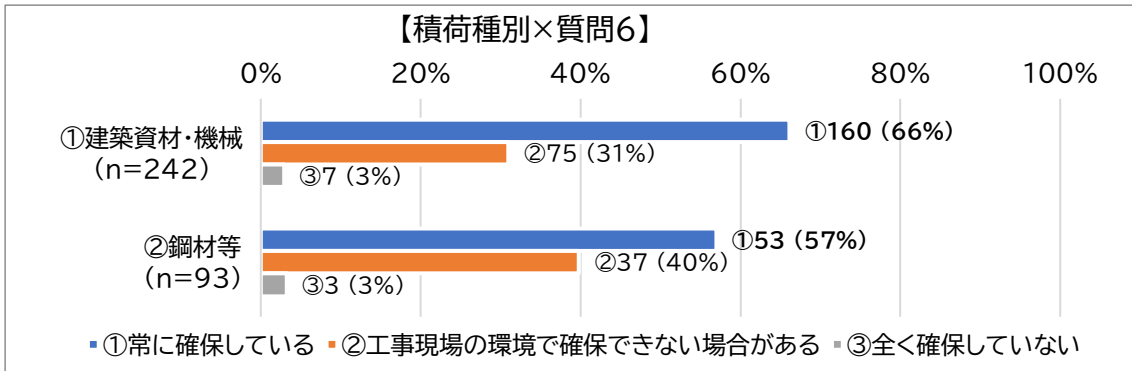


通行許可取得に要する時間について、「建築資材・機械」を取り扱う回答者は「1ヶ月程度」との回答が最も多く、「鋼材等」を取り扱う回答者は「場合によっては2ヶ月以上」との回答が多かった。

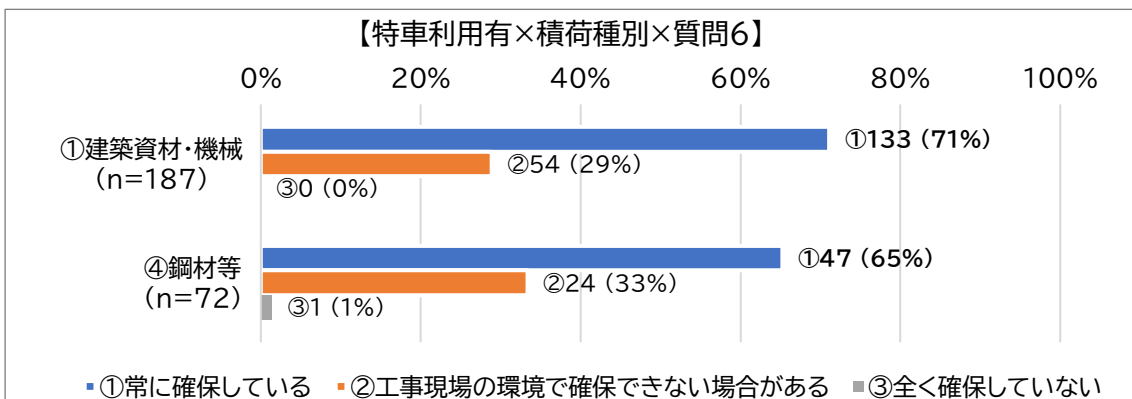


特車利用者のみ限定したところ、全体の回答とほとんど差異は見られなかった。

【積荷種別×質問6: 夜間条件における待機場所・作業ヤードの確保】



搬入・搬出時の待機場所や作業ヤードの確保について、「常に確保している」と回答した割合は、「建築資材・機械」を取り扱う回答者が約7割、「鋼材等」を取り扱う回答者が約6割であった。



特車利用者のみ限定したところ、「常に確保している」と回答した割合は「建築資材・機械」を取り扱う回答者が約5%、「鋼材等」を取り扱う回答者が約8%上昇した。